

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	国語総合	5	高校1年1組～13組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『精選国語総合』(東京書籍)	『プレミアムカラー国語便覧』(数研出版), 『新精選 古典文法 改訂版』(東京書籍), 『新精選 古典文法 準拠ノート』(東京書籍), 『入試頻出漢字+現代文重要語彙 TOP2500 改訂版』(いっずな書店), 『古典の演習1』(啓隆社), 『シンプルスタイルシリーズ 古文単語301』(尚文出版), 『学習のポイントが見えるよむナビ現代文』(いっずな書店)

1. 学習の目標

国語で適切に表現し理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高める。また、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨く。さらに、言語文化に対する関心を深めるために、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身に付ける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 話すこと・聞くこと	3. 書くこと	4. 読むこと	5. 知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合うための努力をしている。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりしている。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書いている。	自分の考えを深め、発展させ、目的に応じて様々な文章を的確に読み取るとともに、読書に親しんでいる。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法	
1	4	ガイダンス・問題演習	国語の学習目標、学習法、ノートの取り方などを学ぶ。基礎学力到達度テスト対策をする。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物	
	5	随想「届く言葉」 評論「今ここにある 無数の未知」 古文入門 「児のそら寝」 「検非違使忠明」	筆者のものの見方や表現の特色に注意して随想を読む。 評論文読解の基本と現代的なテーマについて学ぶ。 古文の基本・用言の活用・辞書の使い方を学ぶ。 説話のおもしろさを読み取る。		
	6	小説「羅生門」	小説の読解の基本を学ぶ。		
	7	古文「徒然草」 漢文入門「矛盾」	古文の助動詞・助詞(係り結び等)を学ぶ。 漢文の基本・訓読を学ぶ。		
	2	9	評論「欲望と科学」 古文「伊勢物語」		評論文の読解を通じ、現代社会への理解を深める。 古文の助動詞・助詞を学ぶ。
		10	漢文「寓話」 小説「城の崎にて」		漢文の句法(否定・疑問・限定など)を学ぶ。 小説の登場人物の心情を、表現に即して読み取る。
		11	詩歌		近代の詩・短歌・俳句を鑑賞する。
3	12	古文「土佐日記」 漢文「唐詩」	古文の敬語を学ぶ。 古文の用言・助動詞に習熟する。 漢詩の基本を学ぶ。		
	1	小説「鏡」	登場人物の心情を、話の展開に注意して読み取る。	定期試験	

	評論「ものと記号」	文章の構成や展開に注意して評論を読解する。	小テスト 授業への取り組み 提出物
2	古文「和歌」	和歌の修辞を学び、鑑賞する。	
3	漢文「史話」	漢文の句法を学ぶ。史話の登場人物の心情を読み取る。 年間を通じ、以下のことを行う。 *朝のHRも利用し、小テスト等を行い、受験レベルの漢字・語彙力等の養成に力を入れる。 *朝のHRなども利用し、読書習慣の確立をうながす。 *実力養成・実力テスト対策として、問題演習を行う。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	国語総合	5	高校1年14組～16組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『精選国語総合』(東京書籍)	『プレミアムカラー国語便覧』(数研出版), 『新精選 古典文法 改訂版』(東京書籍), 『新精選古典文法準拠ノート』(東京書籍), 『入試頻出漢字+現代文重要語彙 TOP2500 改訂版』(いっずな書店), 『プログレス古典総演習・実戦編』(いっずな書店), 『シンプルスタイルシリーズ古文単語301』(尚文出版), 『リテラ現代文2』(文英堂)

1. 学習の目標

国語で適切に表現し理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高める。また、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨く。さらに、言語文化に対する関心を深めるために、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身に付ける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 話すこと・聞くこと	3. 書くこと	4. 読むこと	5. 知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合うための努力をしている。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりしている。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書いている。	自分の考えを深め、発展させ、目的に応じて様々な文章を的確に読み取るとともに、読書に親しんでいる。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法	
1	4	ガイダンス・問題演習	国語の学習目標、学習法、ノートの取り方などを学ぶ。基礎学力到達度テスト対策をする。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物	
	5	随想「届く言葉」 評論「今ここにある 無数の未知」 古文入門 「児のそら寝」 「検非違使忠明」	筆者のものの見方や表現の特色に注意して随想を読む。 評論文読解の基本と現代的なテーマについて学ぶ。 古文の基本・用言の活用・辞書の使い方を学ぶ。 説話のおもしろさを読み取る。		
	6	小説「羅生門」	小説の読解の基本を学ぶ。		
	7	古文「徒然草」 漢文入門「矛盾」	古文の助動詞・助詞(係り結び等)を学ぶ。 漢文の基本・訓読を学ぶ。		
	2	9	評論「欲望と科学」 古文「伊勢物語」		評論文の読解を通じ、現代社会への理解を深める。 古文の助動詞・助詞を学ぶ。
		10	漢文「寓話」 小説「城の崎にて」		漢文の句法(否定・疑問・限定など)を学ぶ。 小説の登場人物の心情を、表現に即して読み取る。
		11	詩歌		近代の詩・短歌・俳句を鑑賞する。
2	12	古文「土佐日記」 漢文「唐詩」	古文の敬語を学ぶ。 古文の用言・助動詞に習熟する。 漢詩の基本を学ぶ。		
	3	1	小説「鏡」	登場人物の心情を、話の展開に注意して読み取る。	定期試験

	評論「ものと記号」	文章の構成や展開に注意して評論を読解する。	小テスト 授業への取り組み 提出物
2	古文「和歌」	和歌の修辞を学び、鑑賞する。	
3	漢文「史話」	漢文の句法を学ぶ。史話の登場人物の心情を読み取る。 年間を通じ、以下のことを行う。 *朝のHRも利用し、小テスト等を行い、受験レベルの漢字・語彙力等の養成に力を入れる。 *朝のHRなども利用し、読書習慣の確立をうながす。 *実力養成・実力テスト対策として、問題演習を行う。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地理歴史・公民	世界史A	2	高校1学年全クラス

使用教科書	副教材
『世界史A』(東京書籍)	『ニュースステージ世界史詳覧』(浜島書店)

1. 学習の目標

古代から中世にいたる世界の歴史の大きな枠組みと流れを、わが国の歴史と関連付けながら理解する。また文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献できる日本人としての自覚と資質を養い、実践できるようにする。

2. 評価の観点

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の文化や習慣を理解し、世界における日本人の地位に相応しい国際感覚を学んでいる。	各国の歴史が、世界の様々な地域に影響を与え、遠く、アジア・日本とも繋がっていることを多角的に考察している。	図版や地図を通して各地の世界遺産や、失われた過去の遺産を学び、今日の社会に残る文化の起源を実際の資料から理解している。	世界の歴史を理解する上で必要な知識を身につけ、その関連性を理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	序章:文明以前の人類	<ul style="list-style-type: none"> 人類の進化の過程について把握する。 人類にとっての食糧生産革命(新石器革命)の意義について考察し、農耕・牧畜の開始による文明の成立を理解する。 	授業への取り組み 提出物 定期試験の成績
	5	第1章:オリエント世界と東地中海世界 A 古代オリエント世界	<ul style="list-style-type: none"> オリエントの古代文明の成立と発展の過程とその後オリエントを統一した2つの帝国の特徴を把握し、違いを考察する。 	
	6	B ギリシア世界 C ヘレニズム世界	<ul style="list-style-type: none"> ポリスと古代民主政治の特徴を中心に、古代ギリシア文明の特質を理解し、またオリエント世界が融合してヘレニズム世界が成立したことを把握する。 オリエント世界の影響を受けて発達した地中海世界で民主政治と専制君主政治の相違を理解する。 	
	7	承前		
2	9	第2章:地中海世界と西アジア A ローマ世界	<ul style="list-style-type: none"> 都市国家ローマの共和政の特徴と、支配の拡大に伴う社会の変化について理解する。 元首政期のローマ社会の特徴について整理すると共に、共和政から帝政への移行とその必然性を理解する。 ローマ文明が後世に伝えた影響について理解する。 	授業への取り組み 提出物 定期試験の成績
	10	B イラン文明	<ul style="list-style-type: none"> イラン文明と周辺諸国との関係を、パルティアやササン朝の統治体制、ペルシア文化の特質から考察する。 	
	11	第3章:南アジア世界 A インドの古典文明 B 東南アジア文明	<ul style="list-style-type: none"> インド文明と、今日も残るカースト制社会の起源を理解する。 インダス文明からクシャーナ朝時代までの古代インド史の特質を、仏教を中心に把握する。 ヒンドゥー教の成立を中心に、インド世界の基盤が形成された過程を把握する。 	
	12	承前		

3	1	第4章:東アジア世界 A 中国の古典文明	<ul style="list-style-type: none"> 中国文明の起源を理解し, 中華帝国の形成過程を考察する。 黄河文明, 邑制国家の成立, 社会の変動と諸思想の出現について理解する。 秦漢帝国の中央集権的専制国家の形成, 三国時代から隋・唐の時代の諸制度の確立と周辺地位への拡大による東アジア文明圏の形成過程を把握する。 	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	2	B 秦漢帝国の形成 C 胡漢融合帝国の誕生		
	3	承前		

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	日本史A	2	高校1年1組～5組, 7組～12組, 14組～16組

使用教科書	副教材
『改訂版 日本史A』(山川出版社)	『山川 詳説日本史図録 第8版』(山川出版社)

1. 学習の目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚を国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。近現代の日本史の展開を、世界史的視野に立ち、多くの要素を踏まえ、幅広い見方で考える。また、歴史の展開の中で、日本文化の特色やその伝統の形成について認識を深める。その際、歴史の過程を実証的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につけ、歴史的思考力を育成する。そして、民主的・平和的な国家・社会を形成する自覚と国際社会に主体的に対応できる資質を養う。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察する。国際社会の変化を踏まえ、公正に判断している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する。また、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章 開国と明治維新	<ul style="list-style-type: none"> 開国から明治維新にいたるまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。 幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家機構の芽生えから幕府の滅亡にいたるまでの経過を社会・経済の変化と関連づけて考える。 	授業への取り組み 提出物 定期試験
	5		<ul style="list-style-type: none"> 開国から明治維新にいたるまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。 幕末における統一国家機構の芽生えから幕府の滅亡にいたるまでの経過を社会・経済の変化と関連づけて考察する。 	
	6	第2章 立憲国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> 明治新政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。 欧米諸国と対等の地位に立つために国家的課題であった不平等条約の改正を行い、東アジアへの進出により欧米列強への仲間入りを目指していった経過について考察する。 政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の開始から立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成される過程を考察する。 	
2	9		<ul style="list-style-type: none"> 立憲体制成立後から第一次世界大戦にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。 日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。 日露戦争の勝利による欧米列強の仲間入りとその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 	授業への取り組み 提出物 定期試験

3	10	第3章 第一次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦前後の政治動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえ考察する。 ・第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などに関連させて理解する。 ・民主主義的風潮による社会運動の動向を理解し、普選運動など政党政治の発展から政党内閣成立までの意義を理解する。 	授業への取り組み 提出物 定期試験
	11			
	12			
	1	第4章 昭和の恐慌と満州事変	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内外の状況について、経済対策はもとより政治・経済の動揺にも着目して理解する。 ・社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程も踏まえて考察する。 ・恐慌から脱出し、ナショナリズムが高揚する日本において、二・二六事件以降ますます軍部が台頭する過程を考察する。 	
	2	第5章 第二次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・日中戦争から太平洋戦争に至る過程について国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的国家体制の発展を考察する。 ・第二次世界大戦について、国家観の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 	
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	地理A	2	高校1年1・6・9・13組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『基本地理A』(二宮書店), 『新詳高等地図』(帝国書院)	『最新地理図表GEO:四訂版』(第一学習社)

1. 学習の目標

系統的内容について、世界の様々な地域の特徴や共通点を結びつけて学習する。系統的内容のうち、自然環境について学習し、世界各地と日本における自然環境の差異や、それに伴う生活の違いを理解する。また、産業に関する内容を学習することにより、世界の様々な地域の特徴や共通点を理解する。さらに、グローバル化する現代世界の地理的認識を養い、地理的な見方・考え方を養う。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の特徴を学び、現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究している。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、地域性をふまえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化について考察している。	地図や統計など地域に関する諸資料を扱い、地理的事象を追究する技能(読解力・表現方法)を身につけている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や、その追究の方法を理解し、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【大地形】 ・地球のすがた ・大陸移動説 ・プレートテクトニクス ・地体構造	・世界全体から大規模な地形をみると、そこに類似性や規則性がみえてくることを理解する。 ・世界の大地形の分布、火山・地震などの活動地域の分布などには特徴があること、人の生活との関わりについて災害や防災、減災の視点を入れながら整理する。	定期試験 授業への取り組み 行動観察 提出物
	5	【小地形】 ・河川がつくる地形 ・海岸地形 ・氷河地形 ・乾燥地形 ・カルスト地形 等	・河川を上流部から河口部までたどりながら、地形の分布と人間生活との関連を整理する。 ・海岸地形やその他の特殊な地形と人間生活との関連について考え、地域開発のあり方や、環境問題との関連を理解する。	
	6	【気候】 ・気候要素 ・気候因子 ・大気大循環 ・ケッペンによる気候区分	・世界の気候が、緯度・隔海度・高度・風・海流などによって影響を受けていることを理解する。 ・大気の大循環と緯度による降雨の違いの関係を理解し、それが砂漠や前線の分布に関わることを知る。 ・世界の気候区分の一例として、ケッペンが植生を指標に気温・降水量などを用いて区分した13の気候区について、分布の特徴とその成因について整理する。	
2	7	【植生・土壌】	・それぞれの気候条件に対する植生・土壌について整理し、地球上の人々の生活は多様だが、その生活や各地の気候条件に対応していることを理解する。	定期試験 授業への取り組み 行動観察 提出物
	9	【農牧業】 ・ホイットルセイによる農牧業区分 ・農産物の流通	・世界の農牧業区分の一例として、ホイットルセイが区分したものをを用い、先進国と発展途上国の農業経営の形態の相違と、生産コスト・収益性の相違との相関を整理する。 ・農業に関する地域的差異を、自然条件だけでなく、文化や経済などから多角的・多面的に捉える。	

3	10	【水産業】 ・漁場の条件 ・世界の主な漁場	・水産業がさかんになる条件を自然・社会の両面から理解する。 ・主な漁場を取り上げ、日本と世界各地との類似性や差異を考察し、気候と水産業とが密接に関係していることを考える。	定期試験 授業への取り組み 行動観察 提出物
	11	【資源】 ・エネルギー資源 ・鉱産資源 ・利用の現状	・世界全体からみたエネルギー・原料資源には地域的な多様性があることを理解する。 ・エネルギー・資源を生産量・消費量などから各国ごとに比較し、その類似性に気づく。また、日本の状況をそこから考える。	
	12	【工業】 ・工業発達史 ・立地条件 ・国際化 ・世界の主な工業地域	・産業革命による社会変革が、現代先進工業国の原点であることを理解する。 ・工業の発達要素について理解し、その分布には類似性があることを整理する。 ・複数の工業地域を扱い、それぞれの共通点や差異を比較する。	
	1	【時差】 ・時差の発見・計算 【交通】 ・陸上交通 (鉄道・自動車) ・海上交通 ・航空交通	・大航海時代以降、時差が認識された事を紹介し、国際化が進行する中で時差の理解の必要性を考える。 ・交通の発達によって生じる時間距離の短縮といった長所ばかりではなく、短所も示すことにより、都市部と周辺部の関係を理解する。 ・貿易立国である日本に住む者として、世界各地の航路を理解する必要があることを考える。	
	2	【地図表現】 ・世界地図の特徴 ・新しい地図表現	・世界地図には様々な描き方があるということを知り、用途に応じた地図の利用が大切であるということを理解する。 ・今後の技術発展によって、より高度な情報を地図上で表現できる可能性を模索し、有効な活用方法について考察する。	
	3	【消費・余暇行動】 ・余暇活動の多様化 ・消費活動の変化	・日本と外国の休日の内容を比較し、それぞれの国民性や余暇、仕事に関する考え方の差異について考察する。 ・ライフスタイルの変化にともなう消費活動の多様化に注目し、その特徴と問題点について考える。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学I	4	高校1年14組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学I』(数研出版), 『数学II』(数研出版)	『マスグレード 数学I+A, II+B』(啓林館) 『Focus Gold web版』(啓林館) 『各問題集用Library』(啓林館)

1. 学習の目標

1次不等式, 2次関数, 式と証明, 複素数と方程式, 図形と方程式, 三角関数, 指数関数・対数関数について理解し, 基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な見方や考え方の良さを認識し考察に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身につけ, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	対象となる事柄を数学的に考察し, 表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけ問題を解決する。	基本的な概念, 原理, 法則, もしくは, 用語・記号などの意味を理解し, 基礎的な知識を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【数学I】		定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み等
		第1章 数と式		
		第3節 1次不等式	不等式, 不等式の基本性質, 不等式の解, 連立不等式	
		6. 1次不等式	1次不等式の応用, 絶対値を含む方程式・不等式	
		7. 1次不等式の利用		
		第3章 2次関数		
		第1節 2次関数とグラフ	放物線の平行移動, 放物線の対称移動	
	5	2. 2次関数のグラフ	2次関数の最大と最小, 定義域に制限があるときの最大と最小, 最大・最小の応用	
		3. 2次関数の最大と最小		
		4. 2次関数の決定	頂点や軸に関する条件が与えられた場合, グラフ上の3点が与えられた場合	
	6	第2節 2次方程式と2次不等式		
		5. 2次方程式	因数分解による解法, 2次方程式の解の公式, 2次方程式の実数解の個数と判別式	
		6. グラフと2次方程式	2次関数のグラフとx軸の共有点の座標, 2次関数のグラフとx軸の位置関係	
		7. グラフと2次不等式	1次関数のグラフと1次不等式, 2次不等式, 2次不等式の応用, 連立不等式	
7		【数学II】		
		第1章 式と証明		
		第1節 式と計算		
	1. 3次式の展開と因数分解	3次式の展開, 3次式の因数分解		
	2. 二項定理	パスカルの三角形, 二項定理, 二項定理の応用		
7	3. 整式の割り算	整式の割り算,		
	4. 分数式とその計算	分数式, 分数式の四則計算		
	5. 恒等式	恒等式, 恒等式の証明, 条件付きの等式		

2	9	第2節 等式と不等式の証明	<p>実数の大小関係, 実数の平方, 正の数の大小と平方の大小, 絶対値と不等式, 相加平均と相乗平均</p> <p>複素数, 複素数の計算, 負の数の平方根</p> <p>2次方程式の解, 2次方程式の解の種類の判別</p> <p>2次方程式の解と係数の関係, 2次式の因数分解, 2数を解とする2次方程式, 2次方程式の実数解の符号</p> <p>剰余の定理, 因数定理</p> <p>因数分解による高次方程式の解法, 因数定理を利用する高次方程式の解法, 高次方程式の解と係数</p>	<p>定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み等</p>
		6. 等式の証明		
		7. 不等式の証明		
		第2章 複素数と方程式		
		1. 複素数		
	10	第3章 図形と方程式	<p>数直線上の2点間の距離, 線分の内分点・外分点</p> <p>2点間の距離, 線分の内分・外分点の座標, 点に関して対称な点</p> <p>x, yの1次方程式の表す図形, 直線の方程式</p> <p>2直線の平行と垂直, 2直線の関係と連立1次方程式の解, 2直線の交点を通る直線の方程式, 直線に関して対称な点, 点と直線の距離, 図形の性質の証明</p> <p>円の方程式, $x^2+y^2+lx+my+n=0$の表す図形</p> <p>円と直線の共有点, 円と直線の位置関係, 円の接線の方程式</p> <p>2つの円の位置関係, 2つの円の共有点</p> <p>軌跡と方程式</p> <p>直線を境界線とする領域, 円を境界線とする領域, 連立不等式の表す領域, 領域と最大・最小, 領域を用いた証明法</p> <p>一般角, 動径の表す角, 弧度法, 扇形の弧の長さや面積</p> <p>一般角の三角関数, 三角関数の相互関係</p> <p>$\theta + 2n\pi$の三角関数, $\theta + \pi$, $\theta + \pi/2$の三角関数</p> <p>$y=\sin \theta$, $y=\cos \theta$のグラフ, $y=\tan \theta$のグラフ, 三角関数のグラフの特徴, いろいろな三角関数のグラフ</p> <p>三角関数を含む方程式, 不等式, 三角関数を含む関数の最大値, 最小値</p> <p>正弦, 余弦の加法定理, 正接の加法定理, 2直線のなす角</p> <p>2倍角の公式, 半角の公式, 三角関数を含む方程式, 不等式</p> <p>三角関数の合成, 三角関数の合成の応用</p>	
		第1節 点と直線		
		1. 直線上の点		
		2. 平面上の点		
		3. 直線の方程式		
11	第2節 円	<p>円の方程式, $x^2+y^2+lx+my+n=0$の表す図形</p> <p>円と直線の共有点, 円と直線の位置関係, 円の接線の方程式</p> <p>2つの円の位置関係, 2つの円の共有点</p> <p>軌跡と方程式</p> <p>直線を境界線とする領域, 円を境界線とする領域, 連立不等式の表す領域, 領域と最大・最小, 領域を用いた証明法</p> <p>一般角, 動径の表す角, 弧度法, 扇形の弧の長さや面積</p> <p>一般角の三角関数, 三角関数の相互関係</p> <p>$\theta + 2n\pi$の三角関数, $\theta + \pi$, $\theta + \pi/2$の三角関数</p> <p>$y=\sin \theta$, $y=\cos \theta$のグラフ, $y=\tan \theta$のグラフ, 三角関数のグラフの特徴, いろいろな三角関数のグラフ</p> <p>三角関数を含む方程式, 不等式, 三角関数を含む関数の最大値, 最小値</p> <p>正弦, 余弦の加法定理, 正接の加法定理, 2直線のなす角</p> <p>2倍角の公式, 半角の公式, 三角関数を含む方程式, 不等式</p> <p>三角関数の合成, 三角関数の合成の応用</p>		
	5. 円の方程式			
	6. 円と直線			
	7. 2つの円			
	3節 軌跡と領域			
12	4章 三角関数	<p>一般角, 動径の表す角, 弧度法, 扇形の弧の長さや面積</p> <p>一般角の三角関数, 三角関数の相互関係</p> <p>$\theta + 2n\pi$の三角関数, $\theta + \pi$, $\theta + \pi/2$の三角関数</p> <p>$y=\sin \theta$, $y=\cos \theta$のグラフ, $y=\tan \theta$のグラフ, 三角関数のグラフの特徴, いろいろな三角関数のグラフ</p> <p>三角関数を含む方程式, 不等式, 三角関数を含む関数の最大値, 最小値</p> <p>正弦, 余弦の加法定理, 正接の加法定理, 2直線のなす角</p> <p>2倍角の公式, 半角の公式, 三角関数を含む方程式, 不等式</p> <p>三角関数の合成, 三角関数の合成の応用</p>		
	1節 三角関数			
	1. 一般角と弧度法			
	2. 三角関数			
	3. 三角関数の性質			
1	2節 加法定理	<p>0や負の整数の指数, 累乗根, 有理数の指数, 無理数の指数</p> <p>指数関数のグラフ, 指数関数の性質</p> <p>対数, 対数の性質, 底の変換公式</p> <p>対数関数のグラフ, 対数関数の性質, 対数関数を含む方程式, 不等式, 対数関数を含む関数の最大値・最小値</p> <p>常用対数, 常用対数の応用</p>		
	6. 加法定理			
	7. 加法定理の応用			
	8. 三角関数の合成			
	5章 指数関数と対数関数			
3	1. 指数の拡張	<p>0や負の整数の指数, 累乗根, 有理数の指数, 無理数の指数</p> <p>指数関数のグラフ, 指数関数の性質</p> <p>対数, 対数の性質, 底の変換公式</p> <p>対数関数のグラフ, 対数関数の性質, 対数関数を含む方程式, 不等式, 対数関数を含む関数の最大値・最小値</p> <p>常用対数, 常用対数の応用</p>		
	2. 指数関数			
	3. 対数とその性質			
	4. 対数関数			
	5. 常用対数			

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学I	4	高校1年15～16組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学I』(数研出版), 『数学II』(数研出版)	『マスグレード 数学I+A, II+B』(啓林館) 『フォーカスゴールド I+A, II+B』(啓林館) 『各問題集用 Library』(啓林館)

1. 学習の目標

数と式, 2次関数, 図形と計量, 式と証明, 複素数と方程式, 図形と方程式について理解し, 基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な見方や考え方の良さを認識し考察に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身につけ, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	対象となる事柄を数学的に考察し, 表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけて問題を解決する。	基本的な概念, 原理, 法則, もしくは, 用語・記号などの意味を理解し, 基礎的な知識を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章数と式 第1節式の計算 1. 整式 2. 整式の加法と減法および乗法 3. 因数分解 第2節実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算	単項式と多項式, 同類項 整式の加法・減法, 整式の乗法, 展開の工夫, 式の展開の工夫 共通因数のくくり出し, 2次式の因数分解, いろいろな方法による因数分解 有理数, 実数, 数の範囲と四則, 実数と数直線, 絶対値 平方根, 根号を含む式の計算, 分母の有理化, 式の値	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み等
	5	第3節1次不等式 6. 1次不等式 7. 1次不等式の利用	不等式, 不等式の基本性質, 不等式の解, 連立不等式 1次不等式の応用, 絶対値を含む方程式・不等式	
	6	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大と最小 4. 2次関数の決定 第2節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式	関数, 関数のグラフ $y=ax^2$ のグラフ, 点の移動, $y=ax^2+q$ のグラフ, $y=a(x-p)^2$ のグラフ, $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ, $y=ax^2+bx+c$ のグラフ, 放物線の平行移動, 放物線の対称移動 2次関数の最大と最小, 定義域に制限があるときの最大と最小, 最大・最小の応用 頂点や軸に関する条件が与えられた場合, グラフ上の3点が与えられた場合 因数分解による解法, 2次方程式の解の公式, 2次方程式の実数解の個数と判別式	
	7	6. グラフと2次方程式 7. グラフと2次不等式	2次関数のグラフとx軸の共有点の座標, 2次関数のグラフとx軸の位置関係 1次関数のグラフと1次不等式, 2次不等式, 2次不等式の応用, 連立不等式	

2	9	第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	正接・正弦・余弦, 三角比の表, 三角比の応用 正弦・余弦・正接の関係, $90^\circ - \theta$ の三角比 座標を用いた三角比の定義, $180^\circ - \theta$ の三角比, 等式を満たす θ , 三角比の相互関係, 直線の傾きと正接	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み等		
	10	第2節 三角形への 応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理 の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	正弦定理 余弦定理, 三角形の角の余弦を表す式, 三角形の角の大きさと 辺の長さの関係 三角形の辺と角の決定 三角形の面積, いろいろな図形の計量, 三角形の内接円と面積 空間図形への応用			
	11	【数学Ⅱ】 第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と 因数分解 2. 二項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 第2節 等式と不等式 の証明	3次式の展開, 3次式の因数分解 パスカルの三角形, 二項定理, 二項定理の応用 整式の割り算, 分数式, 分数式の四則計算 恒等式			
	12	6. 等式の証明 7. 不等式の証明	恒等式の証明, 条件付きの等式 実数の大小関係, 実数の平方, 正の数の大小と平方の大小, 絶 対値と不等式, 相加平均と相乗平均			
	3	1	第2章 複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解と 判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理・ 因数定理 5. 高次方程式		複素数, 複素数の計算, 負の数の平方根 2次方程式の解, 2次方程式の解の種類の判別 2次方程式の解と係数の関係, 2次式の因数分解, 2数を解とする2次方程式, 2次方程式の実数解の符号 剰余の定理, 因数定理 因数分解による高次方程式の解法, 因数定理を利用する高次 方程式の解法, 高次方程式の解と係数	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み等
		2	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係		数直線上の2点間の距離, 線分の内分点・外分点 2点間の距離, 線分の内分点・外分点の座標, 点に関して対称 な点 x, y の1次方程式の表す図形, 直線の方程式 2直線の平行と垂直, 2直線の関係と連立1次方程式の解, 2直線の交点を通る直線の方程式, 直線に関して対称な点, 点と直線の距離, 図形の性質の証明	
		3	第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円		円の方程式, $x^2 + y^2 + lx + my + n = 0$ の表す図形 円と直線の共有点, 円と直線の位置関係, 円の接線の方程式 2つの円の位置関係, 2つの円の共有点	
					進度状況によっては, さらに進む場合がある。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅰ	4	高校1年1～13組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ 改訂版』(数研出版) 『数学Ⅱ 改訂版』(数研出版)	『マスマグレードⅠ+A, Ⅱ+B』(啓林館) 『はぎ取り式練習ドリル数学Ⅰ, Ⅱ標準編』(数研出版)

1. 学習の目標

数と式、図形と計量、二次関数、データの分析、式と証明及び複素数と方程式について理解し、基礎的な知識の習得と技術を習熟し、事象を数学的に考察する能力を身につけ、数学の有用性を認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を身につける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な見方や考え方の良さを認識し考察に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身につけ、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	対象となる事柄を数学的に考察し、表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけ問題を解決する。	基本的な概念、原理、法則、もしくは、用語・記号などの意味を理解し、基礎的な知識を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章 数と式 第1節 式の計算 1. 整式 2. 整式の加法と減法および乗法 3. 因数分解	単項式と多項式、同類項 整式の加法・減法、整式の乗法、展開の工夫、式の展開の工夫 共通因数のくり出し、2次式の因数分解、いろいろな方法による因数分解	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み等
		5	第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6. 1次不等式 7. 1次不等式の利用	
	6	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ	関数、関数のグラフ	
		2. 2次関数のグラフ	$y=ax^2$ のグラフ、点の移動、 $y=ax^2+q$ のグラフ、 $y=a(x-p)^2$ のグラフ、 $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ、 $y=ax^2+bx+c$ のグラフ、放物線の平行移動、放物線の対称移動	
		3. 2次関数の最大と最小	2次関数の最大と最小、定義域に制限がある場合の最大と最小、最大・最小の応用	
	7	4. 2次関数の決定	頂点や軸に関する条件が与えられた場合、グラフ上の3点が与えられた場合	
		第2節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式	因数分解による解法、2次方程式の解の公式、2次方程式の実数解の個数と判別式	
		6. グラフと2次方程式	2次方程式のグラフとx軸の共有点の座標、2次関数のグラフとx軸の位置関係 [期末試験]	

2	9	7. グラフと2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	1次関数のグラフと1次不等式, 2次不等式, 2次不等式の応用, 連立不等式 正接・正弦・余弦, 三角比の表, 三角比の応用 正接・正弦・余弦の関係, $90^\circ - \theta$ の三角比 座標を用いた三角比の定義, $180^\circ - \theta$ の三角比, 等式を満たす θ , 三角比の相互関係, 直線の傾きと正接	定期試験 小テスト 提出物 授業への取 り組み 等
	10	第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積	余弦定理, 三角形の角の余弦を表す式, 三角形の角の大きさと辺の長さの関係 三角形の辺と角の決定 [中間試験] 三角形の面積, いろいろな図形の計量, 三角形の内接円と面積	
	11	8. 空間図形への応用 第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. データの相関 【数学Ⅱ】 第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解	データ, 度数分布表, ヒストグラム, 平均値, 中央値, 最頻値 範囲, 四分位数, 四分位範囲, 四分位偏差, 箱ひげ図, ヒストグラムと箱ひげ図 分散, 標準偏差 散布図, 正の相関関係, 負の相関関係, 相関係数 3次式の展開, 3次式の因数分解	
	12	2. 二項定理	パスカルの三角形, 二項定理, 二項定理の応用 [期末試験]	
3	1	3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 第2節 等式・不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明	整式の割り算 分数式, 分数式の四則計算 恒等式 恒等式の証明, 条件付きの等式 実数の大小関係, 実数の平方, 相加平均と相乗平均	定期試験 小テスト 提出物 授業への取 り組み 等
	2	第2章 複素数と方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	複素数, 複素数の計算, 負の数の平方根 2次方程式の解, 2次方程式の解の種類の判別 2次方程式の解と係数の関係, 2次式の因数分解, 2数を解とする2次方程式, 2次方程式の実数解の符号 剰余の定理, 因数定理 因数分解による高次方程式の解法, 因数定理を利用する高次方程式の解法, 高次方程式解と係数	
	3		[学年末試験]	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学A	2	高校1年14組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学A』(数研出版)	『マスグレード 数学I+A (Libry)』(啓林館) 『Focus Gold 数学I+A (Libry)』(啓林館)

1. 学習の目標

集合と論理, 場合の数や確率及び図形の性質について理解し, 基本的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識出来るようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な見方や考え方の良さを認識し考察に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身につけ, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	対象となる事柄を数学的に考察し, 表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけ問題を解決する。	基本的な概念, 原理, 法則, もしくは, 用語・記号などの意味を理解し, 基礎的な知識を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	集合 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 円順列・重複順列 5. 組合せ	集合とその表し方, 部分集合, 共通部分と和集合, 補集合 ド・モルガンの法則 和集合の要素の個数, 補集合の要素の個数 樹形図, 和の法則, 積の法則 順列, 順列の計算 円順列, 重複順列 組合せ, 組合せの計算, 組分け, 同じものを含む順列	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み 等
	5	第2節 確率 6. 事象と確率 7. 確率の基本性質 8. 独立な試行の確率 9. 反復試行の確率 10. 条件付きの確率	確率の意味, 試行と事象, 事象の確率, 積事象と和事象, 排反事象, 確率の基本性質, 和事象の確率, 余事象の確率 独立な試行, 独立な試行の確率, 3つ以上の独立な試行 反復試行の確率, 反復試行の確率の応用 条件付き確率, 確率の乗法定理, やや複雑な事象の確率 [中間試験]	
	6	[数学I] 第2章 集合と命題 2. 命題と条件 3. 命題と証明 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 三角の辺の比 2. 三角形の外心, 内心, 重心 3. チェバの定理, メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 方べきの定理 7. 2円の位置関係	命題, 条件と集合, 条件の否定, 「かつ」「または」と否定, 必要条件と十分条件 命題の逆, 対偶, 裏, 背理法 線分の内分・外分 外心, 内心, 重心, 正三角形の重心, 外心, 内心 チェバの定理, メネラウスの定理 円周角の定理, 円に内接する四角形の性質, 四角形が円に内接するための条件 円の接線, 接線と弦の作る角 方べきの定理, 方べきの定理の逆 2つの円の位置関係, 共通接線	
	7	8. 作図	平行な直線の作図, 線分の内分点・外分点の作図, いろいろな長さの線分の作図 [期末試験]	

2	9	第2節 空間図形 9. 直線と平面 10. 多面体 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1. 約数と倍数 2. 最大公約数と最小公倍数 3. 整数の割り算と商 および余り	2直線の位置関係, 直線と平面の位置関係, 2平面の位置関係 多面体, 正多面体の体積 約数と倍数, 倍数の判定法, 素数と素因数分解 最大公約数と最小公倍数, 互いに素 割り算における商と余り, 余りによる整数の分類, 合同式	定期試験 小テスト 提出物 授業への取 り組み 等		
	10	第2節 ユークリッドの 互除法 4. ユークリッドの互除法 5. 1次不定方程式 第3節 整数の性質の活用 6. 分数と小数 7. n進法	割り算と最大公約数, ユークリッドの互除法, 最大公約数を表す式 1次不定方程式と整数解, 1次不定方程式の利用 [中間試験] 分数と有限小数・循環小数, 有限小数・循環小数で表される条件 n進法, n進法の小数, 2進法の四則計算			
	11	[数学B] 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルと その演算 1. 平面上のベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル	有向線分とベクトル, ベクトルの相等, ベクトルの加法, 逆ベクトルと零ベクトルベクトルの減法, ベク トルの実数倍, ベクトルの平行, ベクトルの分解 ベクトルの成分, 成分によるベクトルの演算, 点の座標とベクト ルの成分 ベクトルの内積, 内積と成分, ベクトルのなす角, 内積の性質 位置ベクトル, 線分の内分点・外分点の位置ベクトル, 三角形の 重心の位置ベクトル			
	12	6. ベクトルと図形	一直線上の点, 2直線の交点, 内積の利用 [期末試験]			
	3	1	7. ベクトル方程式 第2章 空間のベクトル 1. 空間の座標 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分		直線と方向ベクトル, 異なる2点を通る直線のベクトル方程式, 平面上の点の存在範囲, 直線と法線ベクトル, 円のベクトル方程式 空間の点の座標, 2点間の距離 空間のベクトル, ベクトルの分解, ベクトルの成分, 成分によるベクトル演算, 点の座標とベクトル の成分	定期試験 小テスト 提出物 授業への取 り組み 等
		2	4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 7. 座標空間における図形		一直線上の点, 同じ平面にある点, 内積の利用, 座標空間におけ る直線 線分の内分点・外分点の座標, 座標軸に垂直な平面の方程式, 球 面の方程式	
		3			[学年末試験]	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学A	2	高校1年15～16組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学A』(数研出版)	『マスグレード 数学I+A (Libry)』(啓林館) 『Focus Gold 数学I+A (Libry)』(啓林館)

1. 学習の目標

集合と論理, 場合の数や確率及び図形の性質について理解し, 基本的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識出来るようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して数学的な見方や考え方の良さを認識し考察に活用しようとする。	数学的な見方や考え方を身につけ, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	対象となる事柄を数学的に考察し, 表現あるいは処理の仕方や推論の方法を身につけ問題を解決する。	基本的な概念, 原理, 法則, もしくは, 用語・記号などの意味を理解し, 基礎的な知識を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法	
1	4	集合 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列	集合とその表し方, 部分集合, 共通部分と和集合, 補集合 ド・モルガンの法則 和集合の要素の個数, 補集合の要素の個数 樹形図, 和の法則, 積の法則 順列, 順列の計算	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み 等	
		4. 円順列・重複順列 5. 組合せ 第2節 確率 6. 事象と確率 7. 確率の基本性質 8. 独立な試行の確率 9. 反復試行の確率	円順列, 重複順列 組合せ, 組合せの計算, 組分け, 同じものを含む順列 確率の意味, 試行と事象, 事象の確率, 積事象と和事象, 排反事象, 確率の基本性質, 和事象の確率, 余事象の確率 独立な試行, 独立な試行の確率, 3つ以上の独立な試行 [中間試験] 反復試行の確率, 反復試行の確率の応用		
		6	10. 条件付きの確率 [数学I] 第2章 集合と命題 2. 命題と条件 3. 命題と証明 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 三角の辺の比 2. 三角形の外心, 内心, 重心		条件付き確率, 確率の乗法定理, やや複雑な事象の確率 命題, 条件と集合, 条件の否定, 「かつ」「または」と否定, 必要条件と十分条件 命題の逆, 対偶, 裏, 背理法 線分の内分・外分 外心, 内心, 重心, 正三角形の重心, 外心, 内心
	7	3. チェバの定理, メネラウスの定理	チェバの定理, メネラウスの定理 [期末試験]		
	2	9	4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 方べきの定理 7. 2円の位置関係 8. 作図		円周角の定理, 円に内接する四角形の性質, 四角形が円に内接するための条件 円の接線, 接線と弦の作る角 方べきの定理, 方べきの定理の逆 2つの円の位置関係, 共通接線

	<p>第2節 空間図形 9. 直線と平面 10. 多面体 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1. 約数と倍数</p>	<p>平行な直線の作図, 線分の内分点・外分点の作図, いろいろな長さの線分の作図 2直線の位置関係, 直線と平面の位置関係, 2平面の位置関係 多面体, 正多面体の体積</p> <p>約数と倍数, 倍数の判定法, 素数と素因数分解</p>	等
10	<p>2. 最大公約数と最小公倍数 3. 整数の割り算と商 および余り 第2節 ユークリッドの互除法 4. ユークリッドの互除法 5. 1次不定方程式</p>	<p>最大公約数と最小公倍数, 互いに素 割り算における商と余り, 余りによる整数の分類, 合同式 [中間試験]</p> <p>割り算と最大公約数, ユークリッドの互除法, 最大公約数を表す式 1次不定方程式と整数解, 1次不定方程式の利用</p>	
11	<p>第3節 整数の性質の活用 6. 分数と小数 7. n進法 [数学B] 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 1. 平面上のベクトル</p>	<p>分数と有限小数・循環小数, 有限小数・循環小数で表される条件 n進法, n進法の小数, 2進法の四則計算</p>	
12	<p>2. ベクトルの演算</p>	<p>有向線分とベクトル, ベクトルの相等, ベクトルの加法, 逆ベクトルと零ベクトルベクトルの減法, ベクトルの実数倍, ベクトルの平行, ベクトルの分解 [期末試験]</p>	
3	<p>1 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積</p>	<p>ベクトルの成分, 成分によるベクトルの演算, 点の座標とベクトルの成分 ベクトルの内積, 内積と成分, ベクトルのなす角, 内積の性質</p>	定期試験 小テスト 提出物 授業への取り組み 等
	<p>2 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 7. ベクトル方程式</p>	<p>位置ベクトル, 線分の内分点・外分点の位置ベクトル, 三角形の重心の位置ベクトル 一直線上の点, 2直線の交点, 内積の利用 直線と方向ベクトル, 異なる2点を通る直線のベクトル方程式, 平面上の点の存在範囲, 直線と法線ベクトル, 円のベクトル方程式</p>	
	<p>3</p>	<p>[学年末試験]</p>	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学A	2	高校1年1～13組(総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学A 改訂版』(数研出版), 『数学I 改訂版』(数研出版)	『マスグレード 数学I+A (Libry)』(啓林館), 『はぎ取り式 練習ドリル 数学A 標準編』(数研出版), 『はぎ取り式 練習ドリル 数学I 標準編』(数研出版)

1. 学習の目標

集合と論理, 場合の数や確率及び図形の性質について理解し, 基本的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識出来るようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
数学的活動を通して, 場合の数と確率, 論理と集合及び図形の性質における考え方や体系に関心をもつとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, それらの事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して, 場合の数と確率, 論理と集合及び図形の性質における数学的な考え方を身につけ, 事象を数学的にとらえ論理的に考えると共に思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	場合の数と確率, 論理と集合及び図形の性質において, 事象を数学的に考察し, 処理する仕方や推論の方法を身につけ, よりよく問題を解決する。	場合の数と確率, 論理と集合及び図形の性質における基本的な概念, 原理, 法則, 用語, 記号などを理解し, 基本的な知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法	
1	4	『数学I』第2章 集合と命題 1. 集合	集合とその表し方, 部分集合, 共通部分と和集合, 補集合	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験	
		『数学A』第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数	和集合の要素の個数, 補集合の要素の個数 樹形図, 和の法則, 積の法則		
		3. 順列 4. 円順列・重複順列	順列, 順列の計算 円順列, 重複順列		
	5	5. 組合せ 第2節 確率 6. 事象と確率 7. 確率の基本性質	組合せ, 組合せの計算, 組分け, 同じものを含む順列 確率の意味, 試行と事象, 事象の確率 積事象と和事象, 排反事象, 確率の基本性質, 和事象の確率, 余事象の確率		
		8. 独立な試行の確率	独立な試行, 独立な試行の確率, 3つ以上の独立な試行		
	2	9	9. 反復試行の確率 10. 条件付きの確率 『数学I』第2章 集合と命題 2. 命題と条件 3. 命題と証明		反復試行の確率, 反復試行の確率の応用 条件付き確率, 確率の乗法定理, やや複雑な事象の確率 命題, 条件と集合, 条件の否定, 「かつ」「または」と否定, 必要条件と十分条件 命題の逆・対偶・裏, 背理法
			第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 三角の辺の比		線分の内分・外分, 三角形の二等分線と比
10					

3	11	2. 三角形の外心, 内心, 重心	外心, 内心, 重心, 正三角形の重心・外心・内心	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
		3. チェバの定理, メネラウスの定理	チェバの定理, メネラウスの定理	
		4. 円に内接する四角形	円周角の定理, 円に内接する四角形の性質, 四角形が円に内接するための条件	
		5. 円と直線	円の接線, 接線と弦の作る角	
		6. 方べきの定理	方べきの定理, 方べきの定理の逆	
		7. 2円の位置関係	2つの円の位置関係, 共通接線	
		8. 作図	平行な直線の作図, 線分の内分点・外分点の作図, いろいろな長さの線分の作図	
		第2節 空間図形		
	12	9. 直線と平面	2直線の位置関係, 直線と平面の位置関係, 2平面の位置関係	
		10. 多面体	多面体, 正多面体の体積	
	1	『数学A』第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数	1. 約数と倍数	
2. 最大公約数と最小公倍数			最大公約数と最小公倍数, 互いに素	
3. 整数の割り算と商および余り			割り算における商と余り, 余りによる整数の分類	
2		第2節 ユークリッドの互除法		
		4. ユークリッドの互除法	割り算と最大公約数, ユークリッドの互除法, 最大公約数を表す式	
		5. 1次不定方程式	1次不定方程式と整数解, 1次不定方程式の利用	
		第3節 整数の性質の活用		
3	6. 分数と小数	分数と有限小数・循環小数, 有限小数・循環小数で表される条件		
	7. n進法	n進法, n進法の小数, 2進法の四則計算		

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理基礎	2	高校1学年1組～13組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『新編 物理基礎』(数研出版)	『新編 センサー 物理基礎』(啓林館)

1. 学習の目標

身近な自然の事象・現象についての観察、実験を通して、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。
主に物理分野に関する現象を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念や原理・法則を系統的に理解する。将来的に理系物理を選択し、理工系の大学を目指すきっかけを作り、2年次で物理を選択した場合の基礎力を身に付ける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
身近な自然の事物・現象に関心をもち、毎時間の授業に意欲的に取り組んでいる。	授業で学んだ内容を理解し、実験などを通して、科学的な思考力や判断力を身につけている。	実験の過程と結果及びそこから導き出した考察を的確に表現している。	自然の事物・現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法				
1	4	物理数学	指数・有効数字・三角比	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト				
	5	第1編 運動とエネルギー 1 運動の表し方	①速度 ②加速度 ③落体の運動					
		6	2 運動の法則		①力とそのはたらき ②力のつりあい			
	7	実験①	⑥運動の法則 ④摩擦力 ⑤液体や気体から受ける力					
			2		9	3 仕事と力学的エネルギー	①仕事 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギーの保存	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
					10	第2編 熱	①熱と熱量 ②熱と物質の状態 ③熱と仕事 ④不可逆変化と熱機関	
	11	1 熱とエネルギー						
3	1	第3編 波 1 波の性質	①波と媒質の運動 ②重ね合わせの原理	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト				
	2	2 波の性質	①波の性質 ②発音体の振動と共振・共鳴					
	3							

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理基礎	2	高校1学年14組～16組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『新編 物理基礎』(数研出版)	『新編 センサー 物理基礎』(啓林館)

1. 学習の目標

身近な自然の事象・現象についての観察、実験を通して、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。
主に物理分野に関する現象を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念や原理・法則を系統的に理解する。将来的に理系物理を選択し、理工系の大学を目指すきっかけを作り、2年次で物理を選択した場合の基礎力を身に付ける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
身近な自然の事象・現象に関心をもち、毎時間の授業に意欲的に取り組んでいる。	授業で学んだ内容を理解し、実験などを通して、科学的な思考力や判断力を身につけている。	実験の過程と結果及びそこから導き出した考察を的確に表現している。	自然の事象・現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	物理数学	指数・有効数字・三角比	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	第1編 運動とエネルギー 1 運動の表し方	①速度 平面運動	
		2 運動の法則	②加速度 ③落体の運動 平面の運動	
	2	7	実験①	
9				3 仕事と力学的エネルギー
10		第2編 熱	①熱と熱量 ②熱と物質の状態 ③熱と仕事 ④不可逆変化と熱機関	
11		1 熱とエネルギー		
3	1	第3編 波 1 波の性質	①波と媒質の運動 ②重ね合わせの原理 ①波の性質 ②発音体の振動と共振・共鳴	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
		2	2 波の性質	
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学基礎	2	高校1学年1組

使用教科書	副教材
『改訂 高等学校 化学基礎』(第一学習社)	『セミナー化学基礎+化学』(第一学習社)

1. 学習の目標

<p>化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身に付ける。また、物質の構成粒子の、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。</p>

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
<p>化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。</p>	<p>化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断している。</p>	<p>化学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現している。</p>	<p>観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p>

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章 物質の構成	<p>物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されていることを学習する。</p> <p>物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。</p> <p>混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探究する具体的な方法を身に付けている。</p>	<p>定期試験</p> <p>授業への取り組み</p> <p>提出物</p> <p>小テスト</p>
		第1節 物質の成分と構成元素		
		①物質と成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動		
	5	第2節 原子の構造と元素の周期表	<p>原子の構造について理解する。元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。</p> <p>物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。</p> <p>電子の配置のされ方に応じて、原子の性質が異なることを推論する。</p>	
		①原子の構造 ②元素の相互関係		
	6	第3節 物質と化学結合	<p>イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶を理解する。共有結合、金属結合について学習し、化学結合によって物質が分類できることを理解する。</p> <p>物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。</p> <p>物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。</p> <p>元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。</p> <p>物質量とその応用を理解する。</p> <p>物質の溶解と濃度について学習する。化学反応における量的関係について学ぶ。</p> <p>化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。</p> <p>化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。</p> <p>原子量、分子量、式量および物質量を理解し、物質量を用いた簡単な計算ができる。</p> <p>化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量および</p>	
		①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④分子間の結合 ⑤共有結合の結晶		
⑥金属と金属結合 ⑦結晶の比較				
7				

2	9	第Ⅱ章 物質の変化	物質量の知識を身に付けている。 酸と塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 中和を理解し、塩の種類を学習する。 中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。 酸・塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。 酸・塩基の観察、実験から共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。 ビュレット、ホールピペットなどの取り扱いができると同時に、中和滴定の技能を習得している。 日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えることができる。さらに、中和滴定の量的関係を理解している。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト			
		第1節					
		物質量と化学反応式					
		①原子量・分子量と式量					
		②物質量					
		③溶解と濃度					
	10	④化学変化と化学反応式					
		⑤化学反応の量的関係					
	11	⑥化学変化における諸法則					
		第2節					
	3	1			酸と塩基の反応	酸化・還元の定義を理解し、酸化剤、還元剤について学習する。 (1)酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。 (2)代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できる。 酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 酸化還元反応における量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 金属のイオン化傾向と関連付けて金属の反応性を考察する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
					①酸と塩基		
②水素イオン濃度							
12			③中和と塩				
			④中和滴定				
3			第3節				
	酸化還元反応						
	①酸化と還元						
2	3	②酸化剤と還元剤の反応					
		③酸化還元の量的関係					
		④金属のイオン化傾向					

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学基礎	2	高校1学年2組～13組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『高等学校 改訂 化学基礎』 (第一学習社)	『2021 セミナー化学基礎+化学』 (第一学習社)

1. 学習の目標

<p>化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。</p> <p>化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探求する方法を身につける。また、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。</p> <p>物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらの日常生活と関連付けて考察できるようにする。</p>
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身につけている。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりし、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断している。	化学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探求する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果から導き出した自身の考えを的確に表現している。	観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 ①物質と成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動	<p>・物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されていることを学習する。</p> <p>(1) 物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探求しようとする。</p> <p>(2) 混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探求する具体的な方法を身に付けている。</p> <p>・原子の構造について理解する。</p> <p>・元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。</p>	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	第2節 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②元素の相互関係	<p>(1) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。</p> <p>(2) 電子の配置のされ方に応じて、原子の性質が異なることを推論する。</p>	
	6	第3節 物質と化学結合 ①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④分子間の結合 ⑤共有結合の結晶 ⑥金属と金属結合 ⑦結晶の比較	<p>・イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶を理解する。</p> <p>・共有結合、金属結合について学習し、化学結合によって物質が分類できることを理解する。</p> <p>(1) 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。</p> <p>(2) 物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。</p> <p>(3) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。</p>	
	7			

2	9	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度	<ul style="list-style-type: none"> ・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質量とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。 ・化学反応における量的関係について学ぶ。 	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	<ul style="list-style-type: none"> (1) 化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 (2) 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。 (3) 原子量、分子量、式量および物質量を理解し、物質量を用いた簡単な計算ができる。 (4) 化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量および物質量の知識を身に付けている。 	
	11	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 ・中和を理解し、塩の種類を学習する。 ・中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。 	
	12	③中和と塩 ④中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> (1) 酸・塩基や中和反応に関心を持ち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。 (2) 酸・塩基の観察、実験から共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。 (3) ビュレット、ホールピペットなどの取り扱いができると同時に、中和滴定の技能を習得している。 (4) 日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えることができる。さらに、中和滴定の量的関係を理解している。 	
3	1	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化・還元の定義を理解し、酸化剤、還元剤について学習する。 ・酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 ・金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
			<ul style="list-style-type: none"> (1) 酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。 (2) 代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できる。 (3) 酸化還元反応における量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 (4) 金属のイオン化傾向と関連付けて金属の反応性を考察する。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学基礎	2	高校1年14組～16組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『高等学校 改訂 化学基礎』(第一学習社)	『2021 セミナー化学基礎+化学』(第一学習社)

1. 学習の目標

<p>化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。</p> <p>化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探求する方法を身につける。また、基本的な概念を理解し、物質について徹視的な見方ができるようにする。</p> <p>物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらの日常生活と関連付けて考察できるようにする。</p>
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探求するとともに、科学的態度を身につけている。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考え、分析的・総合的に考察してりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断している。	化学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探求する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現している。	観察、実験などを通して化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法	
1	4	第I章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 ①物質と成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動	<ul style="list-style-type: none"> 物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されていることを学習する。 (1) 物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探求しようとする。 (2) 混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探求する具体的な方法を身に付ける。 	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト	
	5	第2節 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②元素の相互関係	<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造について理解する。 元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。 (1) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付ける。 (2) 電子の配置のされ方に応じて、原子の性質が異なることを推論する。 		
	6	第3節 物質と化学結合 ①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④分子間の結合 ⑤共有結合の結晶	<ul style="list-style-type: none"> イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶を理解する。 共有結合、金属結合について学習し、化学結合によって物質が分類できることを理解する。 (1) 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。 		
	7	⑦金属と金属結合 ⑧結晶の比較	<ul style="list-style-type: none"> (2) 物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付ける。 (3) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付ける。 		

2	9	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度	<ul style="list-style-type: none"> ・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質質量とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。 ・化学反応における量的関係について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。 (2) 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。 (3) 原子量・分子量・式量・物質質量を理解し、物質質量を用いた簡単な計算ができるようにする。 (4) 化学式を使用できるとともに、原子量・分子量・式量・物質質量の知識を身に付ける。 	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則		
	11	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定		
	12		<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 ・中和を理解し、塩の種類を学習する。 ・中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 酸、塩基や中和反応に関心を持ち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。 (2) 酸・塩基の観察、実験から共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。 (3) ビュレット、ホールピペットなどの取り扱いができると同時に、中和滴定の技能を習得する。 (4) 日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えることができ、さらに中和滴定の量的関係を理解する。 	
3	1	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化・還元の定義を理解し、酸化剤、還元剤について学習する。 ・酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 ・金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付ける。 (2) 代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できるようにする。 (3) 酸化還元反応における量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。 (4) 金属のイオン化傾向と関連付けて、金属の反応性を考察する。 (5) イオン化傾向の差によって電流が流れる電池の仕組みと、具体的な例について学習する。 	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	2	⑤電池		

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理 科	生物基礎	2	高1年1組～13組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『改訂 生物基礎』(東京書籍)	『改訂 ニューステップアップ 生物基礎』(東京書籍)

1. 学習の目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高めるようにする。また、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養うようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
・生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探求する姿勢を身につけている。	・生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断ができている。	・生物や生命現象に関する観察・実験技術を身に付けて、結果から出した考えを的確に表現することができる。	・生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性と共通性について理解する。 ・単細胞生物と多細胞生物、細胞群について理解する。 ・生物に共通な特性について理解する。 ・各種細胞の大きさについて理解する。 ・基本的な細胞構造と細胞小器官を理解する。 	定期試験 授業への取り組み
	5		<ul style="list-style-type: none"> ・代謝における酵素のはたらきについて学ぶ。 ・代謝(呼吸と光合成)の概念について学ぶ。 ・ATPの構造と働きについて理解する。 ・ミトコンドリアと葉緑体の起源について学ぶ。 	
	6	遺伝子とその働き	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子の本体、DNAの構造、研究史について理解する。 ・遺伝子の複製と分配、細胞周期について理解する。 ・遺伝情報とタンパク質の合成について理解する。 	
	7		<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子とゲノムについて理解する。 	

2	9	体内環境	<ul style="list-style-type: none"> 細胞内での遺伝子発現について理解する。 染色体とバプについて理解する。 	定期試験 授業への取り組み
	10	体内環境維持のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境の維持について理解する。 血液の成分と働きについて学ぶ。 酸素解離曲線, 血液凝固について学ぶ。 体液の循環, 心臓の構造について学ぶ。 体内環境を調節する器官について理解する。 	
	11		<ul style="list-style-type: none"> 自律神経系のはたらきと構造について学ぶ。 内分泌系による調節 (ホルモンのはたらき) について学ぶ。 血糖量調節について学ぶ。 	
	12	免疫	<ul style="list-style-type: none"> 体温調節について学ぶ。 生体の物理的・化学的防御について学ぶ。 免疫系 (自然免疫・獲得免疫) について理解する。 免疫疾患と免疫を利用した医療について理解する。 	
3	1	植生の多様性と遷移	<ul style="list-style-type: none"> 植生とその環境について理解する。 森林の構造と光環境について学ぶ。 陰生植物と陽生植物について理解する。 遷移 (一次遷移, 二次遷移) について理解する。 	学年末試験 授業への取り組み
		バイオームと その分布	<ul style="list-style-type: none"> 世界のバイオーム, 日本のバイオームについて理解する。 水平分布と垂直分布について学ぶ。 	
	2	生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> 生態系の成り立ちについて学ぶ。 生態系を流れるエネルギーについて理解する。 栄養段階と生態ピラミッドについて理解する。 炭素と窒素の循環について理解する。 生態系の物質収支について理解する。 生態系のバランスと保全について理解する。 	
	3		<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性保全の重要性について学ぶ。 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理 科	生物基礎	2	高校1学年14～16組(特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『生物基礎 改定版』(東京書籍)	『ニューステップアップ 生物基礎』(東京書籍)

1. 学習の目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高められるようにする。また、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を身につけられるようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探求する姿勢を身につけている。	生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をできるようにしている。	生物や生命現象に関する観察・実験技術を身に付けて、結果から出した考えを的確に表現している。	生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性と共通性について理解する。 単細胞生物と多細胞生物、細胞群体について理解する。 生物に共通な特性について理解する。 各種細胞の大きさについて理解する。 基本的な細胞構造と細胞小器官を理解する。 代謝における酵素のはたらきについて学ぶ。 代謝(呼吸と光合成)の概念について学ぶ。 ATPの構造と働きについて理解する。 ミトコンドリアと葉緑体の起源について学ぶ。 遺伝子の本体、DNAの構造、研究史について理解する。 遺伝子の複製と分配、細胞周期について理解する。 	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5		<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報とタンパク質の合成について理解する。 遺伝子とゲノムについて理解する。 細胞内での遺伝子発現について理解する。 染色体とバブについて理解する。 	
	6	遺伝子とその働き		
2	7		<ul style="list-style-type: none"> 体内環境の維持について理解する。 血液の成分と働きについて学ぶ。 酸素解離曲線、血液凝固について学ぶ。 体液の循環、心臓の構造について学ぶ。 体内環境を調節する器官について理解する。 	出席状況 定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	9	体内環境		
	10	体内環境維持のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 自律神経系のはたらきと構造について学ぶ。 内分泌系による調節(ホルモンのはたらき)について学ぶ。 血糖量調節について学ぶ。 体温調節について学ぶ。 生体の物理的・化学的防御について学ぶ。 	
	11	免疫	<ul style="list-style-type: none"> 免疫系(自然免疫・獲得免疫)について理解する。 免疫疾患と免疫を利用した医療について理解する。 	
	12			

3	1	植生の多様性と遷移	<ul style="list-style-type: none"> ・植生とその環境について理解する。 ・森林の構造と光環境について学ぶ。 ・陰生植物と陽生植物について理解する。 ・遷移（一次遷移，二次遷移）について理解する。 ・世界のバイオーム，日本のバイオームについて理解する。 ・水平分布と垂直分布について学ぶ。 	出席状況 学年末試験 授業への取り組み 提出物 小テスト プレゼンテーション
		バイオームと その分布		
	2	生態系とその保全		
	3			

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合があります。

教科名	科目名	単位数	年・組
保健体育	体育	2	高校1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『アクティブスポーツ 2021 (総合版)』(大修館書店)	『新版 健康手帳』(大修館書店)

1. 学習の目標

<p>基礎体力の向上をはかり、各種の基本動作を習得する。また、安全と事故防止に注意し、互いに協力し合って練習・競技・ゲームができるようにする。自分の健康・体力に関心を持ち、進んで運動する習慣を身につけられるようにする。</p>

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
各種の特性に関心を持ち、互いに協力しながら健康・安全に留意して課題や練習に取り組もうとしている。	能力に適した課題の解決を目指して練習の仕方を工夫している。	各種の特性に応じた基礎的な技能を身に付けることができる。	各種の特性や学び方、合理的な練習法・競技・審判の方法を理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4 5	○体づくり運動 ・ラジオ体操 ・集団行動 ・新体力テスト	ラジオ体操第一 整列、方向転換、人員点呼、列の増減、行進等 50m走、持久走、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、握力、 長座体前屈、反復横跳び、上体起こし	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験 小テスト
	6 7	○陸上(選択制) ・走り高跳び ・ハードル走 ・円盤投げ ○水泳 ・自由形 ・平泳ぎ ○体育理論 ・運動・スポーツの文化的特徴 1 人間にとって「動く」とは何か 2 スポーツの始まりと変遷 3 文化としてのスポーツ	助走、踏切、空中姿勢、着地 はさみ跳び、ベリーロール、記録測定等 ハードリングドリル(5歩・3歩・アプローチ) 助走、踏切、空中姿勢、記録測定等 円盤の持ち方、扱い方(回転)、立ち投げ 記録測定等 キック・ストローク・呼吸・コンビネーション ・A班(上級)より速く、長く泳ぐ、スタート、ターン タイム計測 ・B班(中級)50m以上・安定したフォームの習得 ・C班(初級)25m以上・基礎からの習得 人間にとっての運動の意味 動きの工夫と文化 スポーツの始まりと発展 近代スポーツから国際スポーツへ スポーツを文化としてとらえること スポーツ文化の変容とメディア ※体育理論は天候に応じ適宜実施	
2	9 10 11	○武道・ダンス(選択別) ・剣道	礼法・基本動作(姿勢、進退動作、体さばき、素振り等)	授業への取り組み 提出物 行動観察

3	12	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道 ・ダンス ○体育理論 <ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの文化的特徴 4 オリンピックと国際理解 5 スポーツと経済 6 ドーピングとスポーツ理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・応用動作等 礼法・基本動作（姿勢，組み方，進退動作，くずし，体さばき，受け身）・約束練習等 課題ダンス・基本ステップ・表現方法・モチーフ作成 小作品づくり・創作ダンス作り・発表と鑑賞等 オリビズムとオリビクムーブメント 変貌するオリビク スポーツの経済波及効果 拡大するスポーツ産業 ドーピングとスポーツ 求められるスポーツ倫理 ※体育理論は天候に応じ適宜実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実技試験 小テスト
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○陸上競技 ・長距離走 	<ul style="list-style-type: none"> 持久走（2～6Km程度），タイム計測 距離に慣れる，呼吸法，ペース走等 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み マラソン大会結果 提出物 行動観察 実技試験
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○球技（選択制） 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントン ・タッチラグビー ・フットサル 	<ul style="list-style-type: none"> 個人技能（サーブ，ストローク等） ダブルスのコンビネーション等・簡易ゲーム・試合等 個人技能（ハンドリング，パス，ドリブル，シュート等） 集団技能（2対1，3対2）・試合等 個人技能（パス，シュート，ドリブル等） 集団技能（3対3，4対4）・試合等 		

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
保健体育	保健	1	高校1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『現代高等保健体育』(大修館書店)	なし

1. 学習の目標

「健康」はいかに自分らしく、よりよく充実した生活を送るための重要な土台となる。健康を保持増進するために教育面、環境面の支援を組み合わせおこなうヘルスプロモーションが重要なことを理解する。また、実生活と照らし合わせながら学び、生涯を通じて、健康を自ら考え、適切に意志決定、行動選択ができるようにする。「一人一人がたった一回限りの貴重な人生を今生きている」ということを理解し、自分や他人の生命や生活を心から尊重し、それぞれの幸せを協力して実現しようとする態度を身につける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
健康・安全に関心を持つことができる。真摯な姿勢で授業にのぞみ、ノートをとり自らまとめる事ができている。	学習内容に対して常に疑問を持ち、日常生活に照らし合わせ自ら考え選択することができる。	積極的に質問や発言をすることができている。また自分やクラスメイトの意見を尊重して保健に向き合うことができている。	保健を身近な問題としてとらえ、正しい知識を持ち、実践することができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	1 単元 現代社会と健康		授業への取り組み 出席状況 提出物 行動観察 期末試験
		1. 私たちの健康のすがた	<ul style="list-style-type: none"> 健康水準の向上の背景 健康問題の変化 	
		2. 健康のとらえ方	<ul style="list-style-type: none"> 健康についての考え方 健康の成り立ちとその要因 	
		3. 健康と意志決定・行動選択	<ul style="list-style-type: none"> 意志決定・行動選択と影響を与える要因 健康的な意志決定・行動選択の実現と工夫 	
	5	4. 健康に関する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりを支える環境 ヘルスプロモーションの考え方と環境づくり 	
		5. 生活習慣病とその予防	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病と日常生活との関連性と予防 	
		6. 食事と健康	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な食生活の重要性と意義 健康的な食生活習慣の形成 	
	6	7. 運動と健康	<ul style="list-style-type: none"> 健康から見た運動の意義 健康づくりのための運動習慣の形成 	
		8. 休養・睡眠と健康	<ul style="list-style-type: none"> 健康からみた休養・睡眠の意義 健康からみたよりよい休養・睡眠のとり方 	
	7	9. 喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙の健康影響 喫煙開始の要因と依存性 喫煙への対策 	
10. 飲酒と健康		<ul style="list-style-type: none"> 飲酒の健康影響 飲酒開始の要因と社会問題 		

2	9	1 1. 薬物乱用と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒への対策 ・薬物乱用の健康影響 ・薬物乱用開始の要因と社会問題 ・薬物乱用防止と対策 	授業への取り組み 出席状況 提出物 行動観察 期末試験		
		1 2. 現代の感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症とは ・新興感染症と再興感染症の問題点 			
		10	1 3. 感染症の予防		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防の原則 ・現代の感染症対策 	
		1 4. 性感染症・エイズとその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・性感染症・エイズとは ・性感染症・エイズの予防 			
		11	1 5. 欲求と適応機制		<ul style="list-style-type: none"> ・欲求と脳の働き ・さまざまな欲求 ・欲求不満と適応機制 	
		1 6. 心身の相関とストレス	<ul style="list-style-type: none"> ・心身相関のしくみとストレス ・ストレスの影響と心の健康 			
		12	1 7. ストレスへの対処		<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスへのさまざまな対処法 	
			1 8. 心の健康と自己実現		<ul style="list-style-type: none"> ・自己実現と心の健康との関係 ・自己実現の道すじと達成 	
			3		1 9. 交通事故の現状と要因	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の現状と要因
	3	1	2 0. 交通社会における運転者の資質と責任		<ul style="list-style-type: none"> ・安全な運転のための資質 ・交通事故の責任と補償 	授業への取り組み 出席状況 提出物 行動観察 期末試験
			2		2 1. 安全な交通社会づくり	
		3	2 2. 応急手当の意義とその基本		<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当の意義 ・応急手当の手順 	
			2 3. 心肺蘇生法		<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生の意義と原理 ・心肺蘇生の手順 	
			2 4. 日常的な応急手当		<ul style="list-style-type: none"> ・けがの応急手当 ・熱中症の応急手当 	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
芸術	音楽Ⅰ	2	高校1年1組～9組 (総合進学クラス) 高校1年14組～16組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『MOUSA 1』(教育芸術社)	なし

1. 学習の目標

楽器や合唱、観賞を行うことで音楽的能力を伸ばすとともに、情操豊かな人間性を養えるようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
興味・関心をもち、意欲的、積極的に参加している。	歌詞の内容や楽曲の背景を感じ取り、どのように表現するか考えている。	自己のイメージを表現するための技能を身につけている。	感性を働かせて、音楽の要素を知覚し、音楽の良さや美しさを感じ取れている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	校歌練習 実技試験	高校校歌、大学校歌の歌唱練習を行う。 高校校歌の歌唱試験を行う。	実技試験 提出物 授業への取り組み
	5	リズム練習 歌唱練習	「Plymouth Rock」のリズム練習を行う。 「ふるさと」「ひまわりの約束」の歌唱練習を行う。	
	6	実技試験 楽器練習	「Plymouth Rock」の実技試験を行う。 ミュージックベルの練習を行う。	
2	7	楽器練習	ミュージックベルの練習を行う。	実技試験 提出物 授業への取り組み
	9	楽器練習 実技試験	リコーダーの練習を行う。 リコーダーの実技試験を行う。	
	10	実技練習 実技試験 合唱練習	カップスの練習を行う。 カップスの実技試験を行う。 合唱コンクール課題曲・自由曲の練習を行う	
	11	楽器練習 合唱練習 音楽鑑賞	ヴァイオリンの練習を行う。 合唱コンクール課題曲・自由曲の練習を行う。 ミュージカルの鑑賞を行う。	
3	12	実技練習	自由演奏の練習を行う。	実技試験 提出物 授業への取り組み
	1	合唱練習 実技練習	合唱コンクール課題曲・自由曲の練習を行う。 自由演奏の練習を行う。	
	2	合唱練習 実技練習	合唱コンクール課題曲・自由曲の練習を行う。 自由演奏の練習を行う。	
	3	実技試験	自由演奏の実技試験を行う。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
芸術	美術 I	2	高校1年1組, 7~16組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『高校生の美術1』 (日本文教出版)	なし

1. 学習の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化について理解を深め、豊かな情操を養うようにする。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
主体的に表現、鑑賞に取り組んでいる。	制作の過程を通して試行錯誤創意工夫を積極的に行っている。	表現の技能を身に付け自分らしさを創意工夫して創造的に表している。	美術作品や文化遺産などに親しみ感性や想像力を働かせて良さや美しさを理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	鑑賞	肖像画と自画像 DVD鑑賞	授業への取り組み 提出物 出席状況
	5	素描 自画像	人体の構造を理解し、鉛筆による明暗の調子で自画像を描く。プロポーションのバランスや光の方向を根気よく観察して丁寧に描く。また、自分自身と真剣に向き合い、自身の個性や人間性を表現する。	
	6 7	デザイン 平面構成	「自然物からの平面構成」の準備として「自然物のデッサン」を描く。モチーフとなる自然物を自由を選び自画像での経験を生かしてデッサンする。	
2	9 10	デザイン 平面構成	1学期に描いたデッサンをもとに「自然物からの平面構成」の構想を練り、作品のアイデアスケッチと下絵を描く。ポスターカラーで色彩計画に沿った彩色を進めて作品を完成させる。	授業への取り組み 提出物 出席状況
	11 12	粘土で作る 立体の自由制作	粘土で作る立体作品の準備として各自でモチーフの検討を行い作品の構想を練り、下絵を完成させる。	
	3	1 2 3	粘土で作る 立体の自由制作	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合があります。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	コミュニケーション英語 I	3	高1 学年1組～13組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『LANDMARK English Communication I』(啓林館)	『LANDMARK 予習ノート』(啓林館), 『LANDMARK Workbook Standard』(啓林館), 『LANDMARK リスニング CD』(啓林館), 『Listening Laboratory Basic β』(数研出版), 『英単語ターゲット1400』(旺文社), 『英単語ターゲット1400 Workbook 1～3』(旺文社)

1. 学習の目標

日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。具体的には英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解し、概要や要点をとらえる力を身に付ける。英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解し、概要や要点をとらえる力を身に付ける。聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする力を身に付ける。聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書く力を身に付ける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。	日常的话题について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解している。	日常的话题について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現している。	日常的话题についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson1 What Can Blood Type Tell Us? Unit 1～2	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson2 Curry Travels around the World Unit 3～4	
	6	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson3 School Uniforms Lesson4 Gorillas and Humans Unit 5～8	
2	9	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson5 “gr8” or great? Unit 9～11	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson6 Biodiesel Adventure Lesson7 Eco-tour on Yakushima Unit12～14	
	11	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson8 Mariko Nagai, Super Interpreter Unit15～16	
3	12	LANDMARK	Lesson8 Mariko Nagai, Super Interpreter	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	1	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson9 Space Elevator Unit17～18	
	2	LANDMARK	Lesson10 Friendship over Time	

	3	Listening Laboratory	Unit19~20	
--	---	----------------------	-----------	--

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	コミュニケーション英語 I	3	高1 学年 14組～16組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『LANDMARK English Communication I』(啓林館)	『LANDMARK 予習ノート』(啓林館), 『LANDMARK Workbook Advanced』(啓林館), 『LANDMARK リスニングCD』(啓林館), 『Listening Laboratory Basic β』(数研出版), 『英単語ターゲット 1400』(旺文社), 『英単語ターゲット 1400 Workbook 1～3』(旺文社)

1. 学習の目標

日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。具体的には英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解し、概要や要点をとらえる力を身に付ける。英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解し、概要や要点をとらえる力を身に付ける。聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする力を身に付ける。聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書く力を身に付ける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。	日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解している。	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現している。	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson 1 What Can Blood Type Tell Us? Unit 1～2	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson 2 Curry Travels around the World Unit 3～4	
	6	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson 3 School Uniforms Lesson 4 Gorillas and Humans Unit 5～8	
2	9	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson 5 “gr 8” or great? Unit 9～11	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson 6 Biodiesel Adventure Lesson 7 Eco-tour on Yakushima Unit 12～14	
	11	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson 8 Mariko Nagai, Super Interpreter Unit 15～16	
3	12	LANDMARK	Lesson 8 Mariko Nagai, Super Interpreter	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	1	LANDMARK Listening Laboratory	Lesson 9 Space Elevator Unit 17～18	
	2	LANDMARK	Lesson 10 Friendship over Time	

	3	Listening Laboratory	Unit19~20	
--	---	----------------------	-----------	--

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語表現 I	4	高1 学年1組～13組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『DUALSCOPE English Expression I』(数研出版)	『総合英語 One』(アルク), 『総合英語 One Section II Grammar Book』(アルク), 『総合英語 One Workbook』(アルク), 『Speak & Write』(エスト出版), 『Jet Reading』(数研出版)

1. 学習の目標

英文法の学習を通じて英文の構造に関する基礎の定着を図る。それを踏まえてリスニングやスピーキング活動に生かせる表現を学習し、英語で自分の意見を述べるなどのコミュニケーション力をつける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、他者とのコミュニケーションを図ろうとしている。	異文化の考え方、表現の違いを正しく判断し、それに対して正しく反応することが出来ている。	日常的な話題について、英語で聞いたり、読んだりして、相手が伝えようとする情報を理解し、発信することが出来ている。	英語の文法学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	DUALSCOPE English Expression I Lesson 1～5	文の種類、文型(1)(2)、その他の文の種類/文型と動詞、時制(1)(2)	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	DUALSCOPE English Expression I Lesson 6～Extension 2 Jet Reading Lesson 1～3	完了形(1)(2)、「時・条件」の節と動詞・さまざまな完了形 会話、説明文、広告	
	6	DUALSCOPE English Expression I Lesson 8～11 Jet Reading Lesson 4～8	助動詞(1)～(3)、助動詞のさまざまな表現、受動態(1) 会話、評論、説明文、テキストメッセージ	
2	7	DUALSCOPE English Expression I Lesson 12	受動態(2) インタビューテスト (英会話)	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	9	DUALSCOPE English Expression I Lesson 13～Extension 4 Jet Reading Lesson 9～11	不定詞(1)～(3)、不定詞を使ったさまざまな表現 評論、説明文、メール	
	10	DUALSCOPE English Expression I Lesson 16～18 Jet Reading Lesson 12～13	動名詞(1)(2)、分詞(1) 説明文、評論	
	11	DUALSCOPE English Expression I Lesson 19～22 Jet Reading Lesson 14～18	分詞(2)、独立分詞構文・分詞を用いたさまざまな表現、 関係詞(1)～(3) 説明文、ウェブサイト、評論	
	12	DUALSCOPE English Expression I Extension 6	複合関係詞 Show and Tell 発表 (英会話)	

3	1	DUALSCOPE English Expression I Lesson23 ~Extension 7 Jet Reading Lesson19~20	比較(1)~(3), さまざまな比較表現 グラフ, 評論	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	2	DUALSCOPE English Expression I Lesson25~26 Jet Reading Lesson21	仮定法(1)(2) 説明文	
	3	Jet Reading Lesson22	エッセイ ディベート (英会話)	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語表現 I	4	高1学年 14組～16組(特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『DUALSCOPE English Expression I』(数研出版)	『総合英語 One』(アルク), 『総合英語 One Section II Grammar Book』(アルク), 『総合英語 One Workbook』(アルク), 『Speak & Write』(エスト出版), 『Jet Reading』(数研出版)

1. 学習の目標

英文法の学習を通じて英文の構造に関する基礎の定着を図る。それを踏まえてリスニングやスピーキング活動に生かせる表現を学習し、英語で自分の意見を述べるなどのコミュニケーション力をつける。

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、他者とのコミュニケーションを図ろうとしている。	異文化の考え方、表現の違いを正しく判断し、それに対して正しく反応することが出来ている。	日常的话题について、英語で聞いたり、読んだりして、相手が伝えようとする情報を理解し、発信することが出来ている。	英語の文法学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	DUALSCOPE English Expression I Lesson 1～5	文の種類、文型(1)(2)、その他の文の種類/文型と動詞 時制(1)(2)	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	5	DUALSCOPE English Expression I Lesson 6～Extension 2 Jet Reading Lesson 1～3	完了形(1)(2) 「時・条件」の節と動詞・さまざまな完了形 会話、説明文、広告	
	6	DUALSCOPE English Expression I Lesson 8～12 Jet Reading Lesson 4～8	助動詞(1)～(3)、助動詞のさまざまな表現、受動態(1)(2) 会話、評論、説明文、テキストメッセージ	
2	7	Additional 1～4	疑問文、否定文、語法、強調・倒置・挿入・省略 インタビューテスト(英会話)	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
	9	DUALSCOPE English Expression I Lesson 13～Extension 4 Jet Reading Lesson 9～11	不定詞(1)～(3)、不定詞を使ったさまざまな表現 評論、説明文、メール	
	10	DUALSCOPE English Expression I Lesson 16～18 Jet Reading Lesson 12～13	動名詞(1)(2)、分詞(1) 説明文、評論	
	11	DUALSCOPE English Expression I Lesson 19～22 Jet Reading Lesson 14～18	分詞(2)、独立分詞構文・分詞を用いたさまざまな表現、 関係詞(1)～(3) 説明文、ウェブサイト、評論	
	12	Extension 6	複合関係詞	

		Additional 5～7	名詞構文・無生物主語, 代名詞(1)(2) Show and Tell 発表 (英会話)	
1		DUALSCOPE English Expression I Lesson 23 ~Extension 7 Jet Reading Lesson 19～20	比較(1)～(3), さまざまな比較表現 グラフ, 評論	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物
2		DUALSCOPE English Expression I Lesson25～26 Additional 8～9 Jet Reading Lesson 21	仮定法(1)(2) 前置詞, 接続詞 説明文	
3		Jet Reading Lesson 22	エッセイ ディベート (英会話)	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
総合的な探究の時間		1	高校1学年 全クラス

使用教科書	副教材
なし	『ソーシャルチェンジ』(教育と探求社)

1. 学習の目標

<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4			授業への取り組み ポートフォリオ入力
	5			
	6	日藤祭 (文化祭)	クラスの催しやクラブ活動の発表・展示等を準備日も含め、3日間にかけて行う。(9時間)	
2	7	水泳球技大会	本校プール・体育館等にて、中学・高校全体の水泳球技大会を行う。(4時間)	授業への取り組み ポートフォリオ入力
	9	高大連携教育	本学生物資源科学部、法学部、経済学部、商学部、理工学部、三軒茶屋キャンパス (危機管理学部・スポーツ科学部) の中から1学部を選び、講義・実習等を行うことで文系・理系コース分けや大学選び、職業を考えるきっかけにする。(6時間)	
	10			
	11	体育祭	本校NFグラウンドにて、中学・高校全体の体育祭を行う。(6時間)	
	12	マラソン大会	こどもの国にてマラソン大会を行う。男子は6.4km、女子は4.0kmを走る。(3時間)	
3	1			授業への取り組み ポートフォリオ入力
	2	合唱コンクール	藤沢市民会館大ホールにて、合唱コンクールを行う。(7時間)	
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

なお、令和4年度の先行実施としてLHRにおいて「総合的な探究の時間」の活動を実施する。